

平成18年度第2回関東ブロッククラブ育成推進協議会開催報告

日 時：平成18年12月2日（土） 13：00～17：30

会 場：岸記念体育会館 地下3階講堂

参加者：8都県57クラブ及び育成事業関係者104名

目 的：クラブ育成推進事業における育成指定クラブやクラブ育成アドバイザーが抱える課題を明らかにし、問題解決の糸口を探るため次の3点に重点を置き開催した。

(1) 具体・詳細な情報の入手。(2) 参加者間のコミュニケーション促進。(3) 参加者のモチベーション向上。

内 容：育成指定クラブを卒業したクラブ等が、課題を乗り越えてクラブ運営がなされるまでの取り組み等についてプレゼンテーションを行い、参加者はそれを基に、コミュニケーションタイムで自分の欲しい情報を求めて各ブースを回る。1ブース20分とし、「コミュニケーションスタンプラリー用紙」にスタンプをもらってから移動。クラブ育成アドバイザーと都県総合型クラブ担当者は、ブースの円滑運営に務める。最後に、各クラブが参加者とのコミュニケーションタイムで感じたことなどから応援メッセージを贈った。

【クラブによるプレゼンテーション】

塙山コミュニティクラブ（茨城県日立市・発表者：伊藤智毅氏）：コミュニティ組織とスポ少の子供たちが中心。環境・地域づくりを基本理念に運営。総合型クラブの必要性・クラブの基本理念の整理・円滑な運営のための推進体制・事務局や活動拠点の設置場所・活動施設は学校区のスポーツ施設のみか？など5つの課題に分類して取り組む。



みくりやスポーツクラブ（栃木県足利市・発表者：塩谷健次氏）：スポーツをしていない地区のお爺ちゃんやお祖母ちゃん、家の中にいる子供達を対象に「身体を動かした健康づくり」を目標にした。

旧協和中学校体育館を活動拠点に、体育館倉庫を改装（手作り）しクラブハウスを設置。

うすねニュースポーツクラブ（群馬県沼田市・発表者：小野里順子氏）：スポーツ教室等の参加者の定着化に「他にも楽しみたい人がいるのでは？」といった疑問から、市教委がニュースポーツの普及を勧めていたので、チュックボールとターゲットバードゴルフから始める。1年で育成指定クラブを卒業し2年目からは子供の居場所づくりを実施。スタッフの育成と適材適所の配置。地域への浸透。地域住民の意識改革。を行う。

NPO法人ふあいぶるクラブ白鶴（埼玉県さいたま市・発表者：石山太一氏）：県主催のクラブマネージャー養成講習会に（旧岩槻市）体協から受講生を派遣し、その有志により設立。現在は小学生を中心に活動。民間施設・大学・高校・民間企業との協働を画策中。IT企業の経営方法（PMT:Project Management Tool）を参考に、品質機能展開（QFD:Quality Function Deployment）から顧客の声（VOC:Voice of Customer）に注目し、個々の課題に対応するのではなく、課題をグルーピングし関連付けをして問題解決に取り組む。

睦沢ふれあいスポーツクラブ（千葉県睦沢町・発表者：久我政史氏）：中学校部活動の衰退と、市町村合併で従来どおりの施設利用への不安から中学校範囲で設立。町の財政状況から受益者負担の導

入に理解を求め、会費の設定・既存サークル活動の移行などの課題解決のため各関係機関等へ説明会を開き、質問等には次の会で必ず回答する姿勢を貫いた。平成 17 年度は 200 回を超える会議を開催。町の体育施設の指定管理者となり、施設の運営も手がける。

千住ウエスト(東京都足立区・発表者:北島一弘氏):町会が 40 程度あり人は多いが高齢者も多く、反面子供が少ない典型的な下町。活動場所は全て小・中学校の施設で、地域団体の合間を利用。委託事業と併行して従来実施からの文化活動等を実施。既存団体との共存の他に、スタッフの確保。地域住民の認知。学校の理解と協力。活動場所の確保。会費や保険の設定などの課題解決に向け、月に 1 回の運営委員会・理事会を行う。(NPO 法人を申請し許可を得た)

FC ゴールスポーツクラブ(神奈川県横浜市・発表者:半谷真一氏):活動場所を失い 30 年近く休止したスポーツ少年団が、創設時の指導者の導きで OB 達が集まり、自分達のクラブをもう一度やりたい気持ちから始める。活動拠点は、中学校 1 校と小学校 6 校。委託事業以外に、市とジョイントした事業や部活動支援事業などもおこなう。財源確保に独自の回数券のようなカード(PC カード)を利用。パンフレット(チラシ)1 枚で学校施設の利用を実現。e-mail を活用した双方向のコミュニケーション。学校と協働のプログラムの展開。(平成 18 年度継続育成指定クラブ)

伊勢スポーツクラブ(山梨県甲府市・発表者:五味攻氏):県スポーツ指導者協議会甲府支部が中心となり、スポーツの苦手な子供達へのスポーツ提供とスポーツ指導者の活動の場作りから始め、その後、総合型クラブの勉強会を経て設立、小学校とその周辺が活動拠点、学校とその施設利用者の理解、既に立ち上げたスポーツクラブから総合型クラブへ改組することへの理解、受益者負担の保護者の理解、に努める。

新町スポーツクラブ(群馬県高崎市・発表者:近藤亮太氏):平成 9 年度に日体協の育成モデル地区の指定を受け、SVC スポーツ少年団を核に設立。当初は、スポ少活動と総合型クラブの違いに悩み、違いばかりを探していたが、取り組んで 3 年目に殆ど同じ活動だと気づく。既存団体が横につながり共通の部分と一緒にを行うことにより成り立っている。スポ少の人材育成プログラムの活用による中高生によるユースボランティアや地域のボランティアがクラブを支えている。

習志野ベイサイドスポーツクラブ(千葉県習志野市・発表者:小澤淳氏):既存クラブや団体を母体に持たずゼロからスタート。地域に無いスポーツ活動に目を向け設立。行政主導型だが、地域住民も行政側も総合型クラブを知らなかったので、かえって 2 人 3 脚で取り組めた。当初は、早く設立させたい焦りや設立後の不安から設立準備委員会が機能しなかったが、地域にあったクラブ作りが共通認識となり取り組んだ。6 ヶ月の仮活動で設立前に問題を把握。会員の約 7 割を何人登録してもよいという家族会員が占めている。

【ティータイム(コミュニケーションタイム含む)】

各クラブ等が地元やベタな名(謎)産品を持ちより、お茶を飲みながらの情報交換。この時間と名産ブースも本事業を成功に導く大切なツールになる。

【コミュニケーションタイム(ブース巡り・概要報告:ブース臨席者)】

塙山コミュニティクラブ(大畠宗夫):スポーツ種目に偏らない活動を特色とした説明があった(人気種目はフラダンス入門教室)。また、地域内にあるスポ少をすべてクラブ登録して従来通りの少年団活動を実施していることについての質問があった。

みくりやスポーツクラブ(森元潤一):ブースを訪れるクラブ関係者の目の色は真剣そのもの。自ずと、みくりやクラブの塩谷さんの言葉にも熱が入った。制限時間がなければ、エンドレスになってしまった。

うすねニュースポーツクラブ(青木元之):委託金後の財源に関する指導者バンクの仕組の質問が多く、活発な意見交換が行われた。スポ少との関係では「スポ少はしっかりした組織になっているので、取り込もうとすること自体が無理。クラブの理解を得られた上で、協力し合えるところから始めることが大切。」質問者が深く納得していた。

NPO 法人ふぁいぶるクラブ白鶴(舟木泰世):発表の捕捉を行なったあと、質疑応答が行なわれた。会費の設定・徴収方法や種目間交流・移動についての質問が多かった。会員サービスの面では、掲示板の活用が有効であると石山氏から情報提供があった。

睦沢ふれあいスポーツクラブ(佐野暢俊):有料になっても既存団体所属の90%の人達が会員登録をしたことに質問が集中した。クラブ員となり、会費を納入すれば今までどおり無料でスポーツの出来ることを理解してもらうため、延べ200回の会議と住民説明会を開催した。

千住ウエスト(久保内智子):多くの質問が出た中で印象的なものは「NPO 法人のメリット」で、参加者の感じているほど利点はなかった。現在感じていることを聞くと、「社会的な責任が生じ、出来る範囲のことを真摯な態度で活動したい」と熱い思いの回答があった。

FC ゴールスポーツクラブブース(遠藤晃弘):15分パワーポイントを用いた詳細な説明の後、5分間の質疑応答という形式を6セット全て満員御礼で行われた。半谷クラブマネジャーのゴールマジックかかってしまった。

伊勢スポーツクラブ(進藤芳昭):最初から理想を求めすぎている。クラブハウスは、指導者は、運営費はと問題を抱え込みすぎ、身動きがとれないでいる。小さく立ち上げた上で問題を一つ一つ解決していく。

新町スポーツクラブ(植木正美):スポーツクラブ主催のイベント(スター選手を誘致)は、地域住民に“おらが町”の感覚をうえつけ良いプライドを見いだせる。とても充実して参加者は帰宅した。

習志野ベイサイドスポーツクラブ(栗原健一):あれもこれも聞きたい参加者へ丁寧に答えつつ「何をしなくてはいけないではなく、今何が出来るかを考えて欲しい。出来ることを一つ一つ積み上げ、地元にあったクラブを作って欲しい。」と説かれた。



【コミュニケーションタイムを終えて】

埴山コミュニティクラブ:健康で豊かな生活を否定する人はいないと思う。総合型クラブでそれらを達成出来るなら委託事業はチャンスである。

みくりやスポーツクラブ:同じ人間同士、スポーツを行っている仲間であることを忘れずに、膝を突合せ・腹を割った話し合いを大切にしたい。

うすねニュースポーツクラブ：楽しいと感じると記憶に残り「またクラブに行こう」と思ってもらえる。この繰り返しでだんだん地域に根付くのかなと6年かかり思う。

NPO 法人ふぁいぶるクラブ白鶴：折角苦勞して総合型クラブを作るのであれば、何でもいいから取り組みの中から感動することを見つけて欲しい。



睦沢ふれあいスポーツクラブ：既存のクラブの縦割りを横に繋げたクラブなので、会費について問題があるが、苦勞も楽しみである。

千住ウエスト：「行政が手を引いたらどうなるか？」との質問を受けたが、この事業は行政と協働が基本。行政に地元が共同体として入り、担い合うものだと思う。どちらかが手を引くとか、辞める・辞めないではないと思う。

FCゴールスポーツクラブ：もっとお伝え出来ることが有ったと思う。ご連絡頂ければ分かる範囲でご協力させて頂きたい。今日の私に合った言葉を紹介したい「この道より、われを生かす道なし。この道を歩く（武者小路実篤）」

伊勢スポーツクラブ：家庭菜園に例えると、土がしっかりと出来上がっている状態だと思う。後は、種を撒き、芽をふかせ大きく成長させるための主が必要だ。良い心の熱いリーダーを早く見出し、大きな野菜を育てて欲しい。

新町スポーツクラブ：私達の活動は人材育成が評価されていると思うが、それは手が付け易かった所から行ったにすぎない。出来ることから行うのが良いと思う。

習志野ベイサイドスポーツクラブ：総合型クラブ作りに方程式なく、クラブの数だけ作り方がある。クラブを作ることは容易いけど、維持拡大すること、どうしたら継続できるか頑張り過ぎずに考えて欲しい。

【会議を終えて】

運営面で良かった点を2点あげたい。1点目はティータイム。気分転換と情報整理の時間で、各自のタイミングで取り組み自ら参加する意識を強く持てたこと。2点目は各ブースに参加した証のスタンプラリーで、達成感を味わいながらモチベーションの維持が出来たこと。この“遊びごころ（ゆとり）”がよい結果に導けた一因と考える。そして一番よかったことは、委託事業の成果を複数示すことができたことだ。

（報告；関東ブロック地方企画班員 栗原 健一）